

# 日本パペットセラピー学会(JPTA)からのお知らせ

\* 主な記事：第 16 回大会報告・初心者研修会報告・第 17 回大会に向けて等

2022 No.2

2022 年 12 月 12 日 JPTA 事務局 〒453-0036 名古屋市中村区森田町 3-6-6  
メールアドレス info@j-pta.net FAX: 052-471-0028

2022 年度日本パペットセラピー学会第 16 回大会が 10 月 29 日（土）前夜祭、30 日（日）にオンラインで開催されました。参加者の皆様のご感想等含め、大会のご報告をさせていただきます。（編集長：中下富子）

## 日本パペットセラピー学会第 16 回大会を終えて



大会長 中下富子

第 16 回大会では、大変お世話様になりました。

ご参加いただきました皆様より、励ましや課題等、様々なご感想をいただき、安堵したり反省したりしつつ前夜祭を含めて、お陰様で 2 日間の大会を終了することができました。ありがとうございました。

1 日目の前夜祭では、総合司会者を急遽変更せざるを得ない状況になりましたが、上原理事にバトンタッチでき、滞りなく前夜祭を進めることができました。初企画の前夜祭「パペットタイム」では、研修委員会の皆様に、前夜祭にふさわしいパペットセラピーを最愛のパペットとともにご披露いただきました。

また、高村理事長には、「実践紹介」として心身に障害のある重度な子どもとの数十年に及ぶパペットにかかわる貴重なご経験を語っていただき、パペットセラピーの限らない役割をお示しいただきました。

2 日目の大会当日は、総合司会の根岸副大会長が、肩肘の貼らない和やかな楽しい雰囲気を進めてくださいました。まず、大会長講演では、本学会機関誌「パペットセラピー」第 1～15 巻までの研究の動向を分析整理して発表させていただきました。

教育講演、特別講演では、都丸千寿子先生、竹内一夫先生に子どもを取り巻く背景に関して教育、精神保健の観点から、ご講演をいただきました。テーマに対してお二人の先生ともに十分なお準備のもと、本大会にフィットした内容をご講演いただけたと思っております。

実践発表では、障害のある子ども、親子の集団を対象とした地域でのパペットセラピーについてご発表いただきました。パペットセラピーの個別または集団を対象とする幅広い活動の実際とその成果に、参加者の皆様からのご感想も多く寄せられました。

情報提供では、学会主催の腹話術研修会のご案内、海外のパペットセラピーに関する書籍をご紹介いただきました。日頃の皆様の実践に役立てていただけたらと思います。

シンポジウムでは、大ベテランのパペットセラピストの方々に、学校、病院でのパペットセラピーの日々の実践を通して、その可能性について思い考えておられることについてご発表をいただきました。

本大会では、テーマを「**コロナ禍の子どもたちへのパペットセラピーの可能性**」といたしまして、コロナ禍で慢性的な自粛生活が続くなか、様々な健康状態、発達段階にある子どもたちの様相に着目し、パペットセラピーの可能性を追究してみました。シンポジウムでは、十分な意見交換ができませんでしたが、本大会を通して一人ひとりの子どもの多様な課題に視点を当て成長を促すことのできるパペットセラピーの可能性を見通すことができたと思っております。

最後に、本大会開催にあたりましてご協力ご参加いただきました多くの方々に、心から厚くお礼申し上げます。



## 日本パペットセラピー学会「第16回大会」につきまして皆様の感想をご紹介します



(会員 福井恵美子)

今大会を通じて、それぞれの分野で研究・実践されておられる方々の数多くの報告から、コロナ禍の子どもたちへのパペットセラピーの可能性の手ごたえを感じることができました。

また、「パペットセラピーとは何か。」を今一度原点に戻り考える機会にもなりました。特に、大会長講演の中で、パペットに命を吹き込む操作技術を手に入れることが大前提とのお話がありましたが、私たちパペット&アーティストファミリー夢のおもちゃ箱のメンバーは、コロナ禍でも月3回の研修を継続して行っており、この地道な積み重ねがパペットセラピーには欠かせないことであることも再認識できました。ありがとうございました。

### パペットセラピー学会に参加して

(会員 南めぐみ)

午前の教育講演会での都丸先生のお話では、コロナ禍で子どもを取りまく環境が大きく変化していることを実感しました。何とかしなければという気持ちになりました。午後の竹内先生の精神保健のお話も勉強になりました。

シンポジウムの発表では、動画を用いたパペットセラピー、不登校児へのアプローチ…など、様々な報告がありました。パペットを見せる、パペットを用いて関わる、パペットで遊ぶ…いろいろなアプローチの仕方があると思います。それぞれのエッセンスを取り入れて今後に生かしたいです。

### 録画視聴感想

(尚絅学院大学 山崎 裕)

今回はリアルタイムの参加ができず、後日配信された録画を視聴させていただきました。

ASD 児童への事例報告が印象に残りました。また同じ頃、「児童による犬に読み聞かせ」の新聞記事(産経・9/11)を目にしました。音読がうまくできない児童が、おとなしく聞き入る読書介助犬に図書を読んであげるといったものでした。犬は読み違いを指摘することがないため、子どもは安心して音読ができ、達成感を得られるのです。これは静かに見つめてくれる犬だからできることで、反応のない人形にはできません。しかし、その児童の事情を熟知するパペットなら、それ以上のことができると思いました。



パペットは大人の人格が駆動していることを子どもも分かっているのですが、あくまでも子どもと同等あるいは下位に存在することに意義があります。共感力と優しさを育む心のゆとりが棲める空間なのです。

(大学生 庄子 遥)

昨日のパペットセラピー学会の話聞いて、現在ではコロナによって乳幼児期から学童期までの子どもたち、障害のある子どもたちの成長発達などさまざまな影響を及ぼしていることを知った。しかし、パペットを用いることによって子どもたちの集中力、やる気を向上させたり、不登校や引きこもりになってしまった子どもとの繋がるきっかけを作れたりするといった先生と子どもたちのコミュニケーションの手助けになっていることを知った。

私はパペットを用いることでコロナによって子どもたちに及ぼしている影響を減らしていけることや、子どもたちが大人に伝えたいことといった本音を話す場を作れることができると感じた。そして、パペットによるきっかけから、子どもたちの感じている困難や不安を大人が一人ひとりに合わせて受け止めていくことが必要であると考えます。

(大学教員 伊藤まゆみ)

10月29日～30日に開催された大会に初めて参加しました。前夜祭のワイワイパペットタイムは、大会参加者の相棒であるユニークなパペットとそのパートナーのペアにたくさん出会い、翌日のプログラムが俄然楽しみになりました。

教育講演の都丸先生のお話から、現代を生きる子どもたちがゲームやネット、デジタル機器に囲まれた環境で育つ過酷さと人として自然に育つことの困難さに、パペットが果たせる役割が見えたような気がしました。

中下先生の大会長講演「パペットセラピー」研究の動向から、また多くのセラピー実践報告から、そのエビデンスが確立されつつあることを知り、セラピーを様々な対象や場で活用することの意義を確信しました。

老年看護学の教育・研究を専門とする者として、認知症でコミュニケーションが困難な方の安心感や満足感を高めるセラピーを実践するために、まずは相棒であるパペット作りから始めたいと思います。

(名誉理事長 原 美智子)

2022年10月30日秋晴れの下、ZOOMですが、中下富子大会長による第16回大会が開催され無事終了しました。大会長、実行委員はじめ皆様方のご協力に感謝します。

新型コロナ流行も3年目、第8波が予告されている不安の中、タイムリーな大会テーマ「コロナ禍の子どもたちへのパペットセラピーの可能性」について討論されました。外部講師による2つのご講演を含め、ご発表のすべてが充実した内容でした。セラピストの巧みな創意工夫により人の心を動かすパペットのもつ大きな力が実感できました。



パペットはコロナに罹りません。指摘された種々の問題をパペットが解決できると確信できました。今後の学会活動にも明るい希望がもてました。また大会前日夕刻には前夜祭として、研修委員会の企画で4人の委員がそれぞれの特技をご披露され楽しい時間を過ごしました。続いて高村理事長が、パペットとともに歩まれた40年余の歴史を語られました。障害をもつ子どもたちへの先生の深い愛情が感じられ、セラピーの原点はここにあるのだと感動いたしました。

さらに今回の大会で特筆すべきは、機関誌編集長の中下先生によって過去1～15巻に収録されている論文の分析が初めてなされたことです。会員の研究の実態がよくわかりました。大会ご準備のご多忙の中をありがとうございました。

大会終了後に配信される録画でまたじっくりと皆様のご発表を視聴して感動を新たにしたいと思います。

## 副大会長を終えて

(第16回大会副大会長 根岸衣美子)

「日本パペットセラピー学会 第16回大会」の開催にあたり、副大会長を喜んで経験させていただきました。東義也副理事長がオンラインのホスト役ということで安心しての船出でした。

「生きる」ということの意義や、人の心の意外なもろさをひしひしと感じさせるこの頃、今こそ「パペットセラピー学会」の出番であると強く思いました。パペットの操作や語り方など、難しそうという印象がありますが、この大会を通して、まずはパペットを自分の分身と思い、パペットに命を吹き込むことにより無限のパペットセラピーの可能性をお伝えできたことと思います。

ご講演をいただいた先生方、ご発表や話題提供をいただいた皆様、ご参加の皆様にご心より御礼を申し上げます。ありがとうございました。



## 日本パペットセラピー学会主催「短期腹話術基礎講座」ご報告

(講師担当理事：矢崎育子・安藤倫子)

研修委員会の企画で、2022年11月14(月)、21(月)、28(月)の3回に渡って、Zoomによる腹話術講座を開催しました。

今回は、初心者グループ3名と準初心者グループ4名の計7名が受講されました。2つの少人数のグループに分けたことにより、講師や受講者の互いの表情がよく見え、個々に合った指導がし易くなり、参加者同士のコミュニケーションにもプラスとなったようです。

受講者の方々の感想では「腹話術の基本ポイントから、パペットセラピーの概念の深さまで、温かい雰囲気の中で楽しく学ぶ事ができた」との声が多く、また「これからも楽しんで、家でもどんどん使っていきたい」「自分も癒された。もっと練習して子供達の前でしてみたい」等の抱負も聞かれました。



私ども講師にとりましても、今回の講座はパペットを介在した楽しい出会いの場となり、パペットセラピーに興味をもち、自分でも活かしたいという方が増えて、有意義な時間となりました。

熱心に集中して参加して下さった受講生の皆様、また企画や運営に協力して下さった理事の皆さま方に感謝致します。ありがとうございました。

## 2023年度日本パペットセラピー学会第17回大会にむけて

来年度2023年の17回大会については、期日、内容は未定です。

理事の中で大会実行委員会を設置し、どのような形式で、どのような内容が会員の皆様のニーズに応えられるか検討していきます。

対面で実施できるようになれば、オンラインと並行のハイブリッドで実施できるかもしれません。

16回大会のアンケート結果を分析し、時間的にも負担がかからないような充実したものを考えていきたいと思っています。詳細が決まり次第、HP等でお知らせします。

### 事務局だより

日本パペットセラピー学会会員の皆様、いかがお過ごしですか。コロナ禍の収束もまだまだ先のようです。活動にも制限があり思うように実践できない状況が続いているかもしれません。

私どもの学会も、対面での会議や研修が困難な中、16回大会をZOOMで実施しました。

また、パペットセラピーをそれぞれの活動の場で活かしていただこうと、3回シリーズの腹話術基礎講座を11月に実施し参加者からの感想も高評価でした。

学会では、会員相互の交流や情報交換をよりスムーズにできるようなシステムを検討しています。これからの新しい社会情勢に対応していきたいと考えています。

